

小学校数の減少

明治2年(1869)、上京第27番組小学校の開業式を初めとして、この年の内に京都市内64番組に各一校の小学校が設立されたことは先に述べた。

この64校のうち、明治20年(1887)に7校が統合して3校になり、明治26年(1893)に4校が統合

番組小学校の変遷 (校数)

年	小学校	中学校	小・中併設校
明2 1869	64	—	—
昭22 1947	53	—	—
昭23 1948	42	11	—
平5 1993	34	11	—
平7 1995	28	10	—
平19 2007	22	5	—
平23 2011	18	4	1

1.京都市学校歴史博物館資料より田中が集計

2.1948.4に11小学校閉校して新制中学となる

合して1校になるなど、明治期のうちに8校が減少した。これは当初の行政の番組(町組

み)設定に問題があつて、実態に即して修正されたものと見てよかろう。その後、京都市域

の拡大等に伴って、小学校の新設も増加して行つたが、都心部の番組小学校区域に大きな変化はなく推移し、それぞれ番号名から固

有名称に替わった旧番組小学校区域の校数は敗戦後の昭和22年(1947)に53校であつ

た。この年に6・3・3制の新学制が定められて、

53校中の11校に中学が併設され、翌年4月に小学校のみ閉校されて新制中学が発足した。四条町が学区に含まれる成徳小学校は新制中学になり、四条町の子どもたちは同校より約150m南の修徳小学校に通うことになった。

その後は大きな変化は見られなかったが、昭和40年代後半(1970年代)になると都市化の進展による中心部の空洞化が生じ始めた。家族揃って町屋に住み、職住一致で商売をし、その暮らしを代々伝えてゆくという伝統が崩れ始めた。町屋で育った息子たちも結婚すると郊外に一家を構え、商家を継いでもそこに住まず、郊外から町中の職場に通勤するという形が増えてきた。そのため京都中心部の人口構成は子どもが減って高齢化の一途をたどり夜間人口は減少して行つた。

児童数僅少の小規模校増加に頭を痛めていた京都市は、ついに平成4年(1992)に中心部の小学校統廃合に踏み切った。陸続として絶えない統廃合の始まりであつた。

この年、乾小学校(下京第1番組)・教業小学校(上京第23番組)が合して洛中小学校に、格致小学校(下京第8番組)・豊園小学校(下京第10番組)・開智小学校(下京第11番組)・修徳小学校(下京第14番組)・有隣小学校(下京第15番組)が合して洛央小学校に、稚松小学校(下京第17番組)・菊浜小学校(下京第18番組)が合して六条院小学校になった。このうち開智小学校はすでに昭和58年(1983)に永松小学校(下京第12番組)を統合していた。翌平成5年(1993)には、竹間小学校(上京第21番組)・富有小学校(上京第22番組)が竹間富有小学校に、本能小学校(下京第2番組)・明倫小学校(下京第3番組)が高倉西小学校に、下京第4番・第5番・第6番組の日彰・生祥・立誠3小学校が高倉東小学校になった。

京都市中心部でも核心地域の山鉾町のすべてを含むエリア内の小学校統廃合はこうして一旦は終了した。慎重に計画を練り満を持しての実行であつたと思われる。ところが、過疎化は予想を上回る速さで進行したのであろう。わずか2年後、平成7年(1995)には再統合が行われた。統合したばかりの高倉西・高倉東両校の高倉小学校への、これまた統合したばかりの竹間富有と梅屋(上京第20番組)・春日(上京第30番組)・龍池(上京第25番組)の御所南小学校への再統合である。この年には核心地域外縁の西陣(上京5番組)・桃園(上京第11番組)の桃園西陣小学校への統合も実施されたが、やはり2年後の平成9年(1997)にこの桃園西陣と成逸(上京第2番組)・聚楽(上京第15番組)との再統合が行われ西陣中央小学校になった。

このように番組小学校統廃合について詳述するのは目的ではない。京都市中心部の少子高齢化による過疎化が加速度を増して進行し深刻の度を増し町衆が減少していったことを明らかにするための手段である。以後の統合の総てを記述することを避け、節目の年の統合後の学校数を一

覧表にして示した。番組小学校 64 校は中学になった学校も含めて 3 分の 1 に集約されたのである。番組小として開校してから 2011 年まで他の学校との統合を経ず一系のまま推移してきた小学校は 8 校である。明治期統合の 8 校を除いて、48 校が最近約 30 年間に進んだ都心過疎化による統廃合の波を被ったのであった。

四条町南部に誕生した下京第 9 番組小学校は、明治 5 年(1872)に下京第 11 区小学校となつて後、白楽天町に移転して一時「白楽」と名乗ったが、明治 9 年(1876)に「成徳」と名付けられ、明治 20 年(1887)から数年間の下京第 11 尋常小学校時代を経て、明治 25 年(1892)成徳尋常小学校、昭和 16 年(1941)成徳国民学校、昭和 22 年(1947)成徳小学校、昭和 23 年(1948)成徳中学校と名を変えた。そして、平成 19 年(2007)に尚徳、皆山、梅逕各中学校と共に下京中学校に統合され 138 年に及ぶ歴史を閉じ、外壁に蔦が絡まる廃校舎だけが残った。

この項の最後に平成 23 年(2011)に統合された小・中併設校について触れておこう。これは有濟、栗田、新道、清水、六原、貞教、修道各小学校、弥栄中学校(下京第 24 番組～下京第 30 番組、下京第 33 番組)併せて 8 校が統合された開晴小・中学校である(他に番組小学校に起源をもたない洛東中学も一緒に統合された)。これは小中一貫義務教育を目的にした学校ではない。あくまでも小規模校ゆえの併設処置である。これらの学校の所在位置は、平安京域外鴨川の東に祇園付近から清水寺に至る東山山麓に南北に連なる地域である。明治初期には一括りに下京に入れられ番組小学校も設立されたが、昭和 4 年(1929)東山区誕生時に大部分が同区に編入された。八坂神社の近隣ながらこの地域に山鉾町はまったく無いが、重要伝統的建造物群保存地域や歴史的景観保全修景地区、歴史的風土特別保存地区、京都市市街地景観整備美観地区などが含まれ絶好の観光地になっている。一方で再開発事業や住環境整備には規制が多い。歴史的風土や景観の保存と並行して、町衆の伝統的な職住一致の日々の暮らしは絶滅に向かった。町から子どもが消えた一例を挙げれば六波羅蜜寺に隣接する六原小学校の生徒数は昭和 30 年代初頭(1950 年代)の 1000 人超から平成 19 年(2007)の 70 数人に激減した。この一事でも小中併設校誕生の背景が窺える。京都中心部のみならず、町衆の衰退は周辺地域でも著しいのである。